

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300517		
法人名	医療法人社団 田中医院		
事業所名	グループホームらべんだあ・なでしこ(らべんだあ)		
所在地	厚岸郡厚岸町門静1丁目76番地		
自己評価作成日	平成29年1月31日	評価結果市町村受理日	平成29年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0174300517-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内にある運動場を利用し法人内の専門職の助言、指導を受けながら身体機能の維持、向上に努めている。また、デイサービスとの連携により慰問行事等への参加や町主催の夏祭りに参加したり文化祭に作品を出展したりと地域住民の方との交流の場への参加も行なっている。医療法人の為、医療との連携もとれており、看護師による毎日の確認にて体調管理等の体制も確保できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から14年目を迎えるこの事業所は居宅介護支援事業所、デイケア、認知症対応型デイサービス、訪問看護、訪問リハビリ等、在宅サービスを有している医療法人が運営している2ユニットの平屋造りになっています。「元気になるグループホーム」を目標にリハビリルーム「元気の杜」を設け、レッグプレスやレッドコードを使い、医師の指示がある利用者を対象に週2回、母体医療法人と結んだWEBカメラでOT監修の運動メニューを利用者に個別に提供して身体機能の維持向上を図っています。また、利用者が健康面も安心出来るよう、法人の医師の往診で適切な医療を受けられる体制になっており、終末期についても早い段階から本人・家族と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら職員間で方針を共有して母体医療法人と連携でターミナルケアが可能な体制作りに取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	☐	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	☐	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	☐	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	☐	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	☐	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	☐	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	☐	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員室や居間にみんなが目に入るところに掲示し、常に心に留めながら業務に当たる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた「住み慣れた地域の中で暮らし、楽しみを持ち笑顔で生活できること。」を事業所独自の理念として申し送りや職員会議を通じて話し合い、理念を共有し、その実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームの夏祭り、避難訓練行事は近隣の方達へ案内状を送りお誘いしている。	事業所行事の「夏祭り」では、地域にチラシを配布して案内し、参加協力を得ており、太鼓や歌謡ショー等でのボランティアとの交流や避難訓練で交流を図っている。また、普段の生活の中でも散歩や外気浴等で日常的な交流に努めている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の家族報告会で認知症について発表、参加して頂いて地域の方にも知っていただく。			
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練や行事を行う際にグループホームで取り組んでいることを知っていただく。	運営推進会議を年6回開催し、事業所の取り組みや現状報告、火災避難訓練参加協力、家族報告会等の具体的内容を話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の介護相談員が来所され現状を見ていたり、利用者様の声を聞いていただくことで意見を頂き向上に勤めている。	地域包括会議や運営推進会議、日常業務の相談等で情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。また、毎月、町の介護相談員が来訪し、取り組みを伝えながらケアの質の向上に向けて取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や研修に参加したり、職員が身体拘束について理解し、禁止対象となる具体的な行為、行動、言動のない支援、介助を行っている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を接遇等の法人内や内部研修会を通じて正しく理解しており、高齢者虐待や身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの周知や勉強会、研修にて情報の共有をしている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会の参加、資料の回覧で学ぶ機会を設けてはいるが、職員全体への浸透には至っておらず、今後活用できる支援について学習していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族へは納得していただけるまで説明を行い、入居後も必要に応じ随時対応している。来所時にはいつでも気軽に相談いただける雰囲気づくりに配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の介護相談員様の来所の際に利用者様の声を聞いていただいている。気づきの点は都度ご意見いただき対処している。また、運営推進会議の際にご家族・地域の方のご意見をいただき運営に反映させている。	来訪時には意見や要望等聞く機会を設け、相談しやすい雰囲気づくりに努めており、毎月、町から介護相談員の来訪があり、外部者へ意見や苦情等を言い表せるよう取り組んでいる。また、グループホームたよりで担当職員から近況報告を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う職員会議のほか、日々の業務の中で職員から出た意見を集約し対応している。また、個別面談の中からも意見を吸い上げ運営に活かしている。	管理者は毎月の職員会議やカンファレンス、日々の業務を通じて職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、出された意見は運営に反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修等の参加に対する積極的な働きかけや参加した内容の全体報告に対しての評価等によりやりがいや向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内学習会や、研修会に積極的に参加し知識の習得に働きかけ、意見の出やすい会議の調整がなされている。勤務上参加できない職員には毎月の職員会議の際に伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部研修や協議会の交流会に積極的に参加することで同業者との交流の機会を持てるようにしている。そこで得た情報などを持ち帰り職員会議で他職員に伝え質の向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	モニタリングを実施し、利用者様の要望に沿った援助、介助をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からご本人様の状況や、自宅での様子を教えて頂き、ご家族様の要望、今後どのように生活して頂きたいか聞き取りを行い、援助を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の思いを聞き必要に応じた情報、支援提供に努めている。他事業所の協力、指導支援も頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自身でできる事は行って頂きながら支援、介助が必要な場合では援助させて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活情報、身体状況を伝えチームである関係が築ける様ご家族様に協力を頂きながら利用者様をささえている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れた美容室などヘアカットに出かけたり、花見、紅葉狩り、夏祭りとお出かけられる様援助している。	地域施設の活用、地域のお祭りへの参加等で本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を忘れないよう取り組んでいる。また、自宅への訪問や理美容院等の馴染みの店を利用できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションを取れる様、スタッフが中に入り余暇活動等行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても行事の時等参加して頂くよう声掛けをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話からお気持ちを知る努力をしている。また、本人から聞けない時にはご家族様にお聞きし、意向に添えるよう努めている。	一人ひとりの生活歴を把握し、日常会話の中から本人の希望や意向を傾聴し、家族からも聞き取りでアセスメントして出来る限り本人らしい生活を送れるよう職員間で検討し取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報提供を頂いたり、ご本人、ご家族様、知人様にお話を聞かせて頂き、利用者様が生活しやすいよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	評価を行い、個々の状況を知り、ケアが行えるようミーティングにて周知し努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアマネージャーとのカンファレンスやモニタリングを実施している。	担当職員を中心にアセスメントを行い、カンファレンスを通じて職員の意見やアイデアを反映するよう取り組んでいる。また、本人、家族からの意見や思いを来訪時や電話で聞き取りし、医師・看護師の関係者の意見も取り入れた現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の毎日の様子を個別記録に記載し、評価に繋げスタッフに周知し援助につなげる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内や、他事業所で、個々の身体状況に合わせたリハビリを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で活動している方々に、行事に参加して頂いたり、入所前からのいきつけの美容室の方に来て頂いている。また、町内巡回のバスによる本の貸し出しサービスも活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医だけではなく、ご家族様の協力のもと専門医への受診も行い、医療連携助助させていただいている。	本人及び家族等の希望するかかりつけ医となっている。また、母体の医療法人の往診や看護師との連携で緊急時の対応も含めて適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、医師、看護師が往診時に、身体特変があれば報告し、処置、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個々のADL状況、既往歴等をまとめ、入院時、病院関係者に情報提供出来るよう緊急持ち出しファイルを作成している。また、退院時には、治療内容等身体状況について情報交換、相談できる関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	医師、看護師、介護士、家族と医療相談を行い、利用者様の状態にあったケアをしている。また、本人、家族様のご希望に沿った終末期を迎えられる様援助している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら職員間で方針を共有している。また、母体医療法人と連携してターミナルケアが可能な体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変に備え緊急持ち出しファイルを用意している。初期対応として救命救急講習を定期的に受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し近隣の方に協力、支援して頂いている。	消防署の協力を得て年2回の火災避難訓練を行い、自治会役員や近隣住民、家族等が参加している。また、スプリンクラーや火災報知器、通報装置の設備を完備し、直火の使用は無く、緊急時の備えに自家発電も設置している。	自然災害について法人の災害対策委員会で定期的に話し合っているが、緊急招集訓練や緊急連絡網の見直し、実技を伴う避難訓練を検討しているので、その実践に期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他利用者様には聞かれない内容の話(排泄、悩み、相談)などは声のトーンを考えたり、声掛けのタイミングを考えたり、場所にも配慮しなくてはならないと考え対応している。	記録などの個人情報の扱いは十分に注意しており、接遇等の法人内研修会を行い、一人ひとりの尊厳や誇りを損ねないような言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ただ生活するだけでなく利用者様が何を望んでいるか考え、声かけしたり、希望を表し易い環境作りを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者様の体調や気分を伺いながら、個人の性格を考え、上手に意思を伝えられない方には表情から読みとり、スタッフの都合ではなく利用者様を優先し利用者様のペースに合わせた支援を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の利用者様に合わせた整容、介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなメニューの聞き取りや、個々に合わせた食事形態を工夫している。家事活動(ちゃわんあらいや)調理活動(具材切りや盛り付け)等を行って頂いている。	献立は法人の管理栄養士指導の下作成し、本人の力を活かして食事の準備、後片付け等楽しんで行えるよう取り組んでいる。また、一人ひとりの嗜好を把握して、その日の体調に合わせた盛り付けや形態を工夫しながら提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携をとり、個々の栄養状態を管理している。水分、食事摂取量チェック表を記入しスタッフが把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて援助、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	水分、排泄チェック表を活用し1人1人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄へ促し、誘導の支援をしている。また拒否が強い利用者に対しては利用者の心理状況を確認し、時間を置いて声かけ、排泄の自立支援を行っている。夜間は、安否確認時に排泄状況を確認し、パット交換を行い覚醒時にはトイレの声かけ、誘導を散る。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、本人のタイミングで排泄できるよう取り組んでいる。また、トイレ誘導はさりげない声掛けや羞恥心への配慮を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取状況について把握し、起床時の水分、牛乳の提供、その人なりの運動を行うことで排便の促しを行っている。慢性的な便秘には医療の連携を行い便秘薬等の処方、看護師による処置にてため込まない対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴表にて頻度を確認し、またご本人の希望ある時に入浴されてる。‘たいぎ、がるもいるが声掛けのタイミング、同性の対応、時間など生活習慣に応じて支援している。	週2回以上、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて、無理強いせず工夫しながら本人が楽しく安心して入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、気持ちに配慮しながら利用者様のタイミングで休息をとっている。座位が長い方、傾眠がちな方には声掛け、促しにて身体が休めるように援助している。夜間の安眠のためにも昼夜逆転にならないよう日中の活動も気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様個々の薬について、用法、用量、副作用について理解し、服薬漏れ、誤飲無いよう行っている。体調を崩された際の頓服、調整した際の新規服薬については、業務日誌に記載し引き継ぎ、周知し、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の趣味を活かした活動や嗜好品の提供をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場への散歩等にはすぐに対応できるよう努めている。また、調整等必要な場合にも利用者様の希望に添えるようしている。花見、紅葉狩り、祭り見学への支援も行っている。	一人ひとりのその日の希望に添って地域のお祭り見物や花見や紅葉狩りなど普段では行けない場所への支援を行っている。また、散歩や東屋での外気浴等、戸外に出かけられるように支援している。	外出する機会が一人ひとりの身心の状態で特定の人に偏りがちなので、機会が少ない利用者に対しても働きかけや外出方法等を工夫して利用者が外出する事で楽しく過ごせる時間を作れるよう個別支援が可能な体制作りを検討しているので、その実践に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方はご自身で財布を所持され支払いもご自身で行っている。お預かりしている方でも必要とされるときはすぐに出せるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望によりホーム内からご家族様にかけたり、ご家族様のご希望で利用者様が携帯電話を使っている。文字のかけない方には代筆支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を行ったり、心地よく生活できるよう清掃を行っている。	共用の空間には、季節毎の装飾や行事参加の写真の掲示等で生活感や季節感を採り入れて、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって不快や混乱を招くような気になる臭いや光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは、座る位置など利用者様全員ができる限り納得できるように配置し、利用者様が好きなところへ移動ができるようスペースをとる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れたものを持参されるよう説明し写真を飾ったりし環境づくりもしている。また、ADL状況に合わせて過しやすい、動きやすい導線も考え配置させた頂く。	居室には、本人や家族と相談しながら、自宅で使い慣れた家具や寝具、趣味の手作りの作品や家族の写真などが持ち込まれ、慣れ親しんだ物を取り入れて、本人が居心地よく過ごせるような環境作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様ができる事、わかる事をスタッフが把握し引き継ぎ行う。引継ぎの際にできる事、わかる事だけではなく、そのときの様子、気をつけていることも伝える。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300517		
法人名	医療法人社団 田中医院		
事業所名	グループホームらべんだあ・なでしこ(なでしこ)		
所在地	厚岸郡厚岸町門静1丁目76番地		
自己評価作成日	平成29年1月31日	評価結果市町村受理日	平成29年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0174300517-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内にある運動場元気の杜にて、パワーリハビリ機器を使用しグループホームリハビリを実施。法人内施設のデイケア専門職の助言や指導を受けながら実践している。また事業所主催の夏祭りや避難訓練等地域の方々と交流にも努めている。
医療法人の為、医療との連携もとれており看護師による毎日の確認にて体調管理の体制も確保している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一人一人が理念を携帯いつでも確認できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等のお知らせや参加の呼びかけ、地域住民の方と避難訓練の実施。法人主催の家族報告会等の案内を出し参加の呼びかけや交流を図れるように取り組んでいる。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用案内のチラシやパンフレットに気軽に相談できる事を呼びかけたり、運営推進会議を利用しキャラバンメイトの講習会を実施している。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町の担当者、町内会の方を交えて情報交換が出来るよう配慮している。また意見や要望を取り入れサービスの向上につなげるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括会議に出席し、行事等には声かけ行い参加して頂き相談しやすい関係を築くよう取り組んでいる。 介護相談員が毎月来所されスタッフ利用者様のかかわり方や活動の様子等を見られ意見をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を認識出来ない利用者様については、家族に現状の報告、説明、話し合いを行い書面にて承諾を得て居室での臥床時にサイドレールを使用してる。現状では玄関に施錠を行っている。また入居者様の状況を常に観察し見守りを重視している。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内にて虐待についての講習会・勉強会への参加、ミーティングにて話し合いを行う事により、各自が虐待への意識を高め防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人事務長に相談し弁護士等より意見をいただき、学ぶ機会を設け活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の説明は時間をかけて丁寧に説明し確認をしながら理解して頂け得よう十分に説明している。契約内容の他にも考えられるリスクや必要経費についても理解していただけるよう十分に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時や運営推進会議で意見、要望、苦情が言えるような雰囲気作りを心がけている。又、出された苦情、意見、要望は書面や申し送りにて反映しミーティングにて話し合いを行っている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議にて意見を出し合える機会を設けている。又連絡ファイルを活用しての意見を出せる環境を設け、情報共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望の研修会参加や促し、資格取得への奨励や援助、手当等の説明を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加者は法人内にて伝達講習会を開催し参加できない職員員への配慮や希望を取り入れての研修参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	協議会の研修や学会に参加しネットワークを広げ、伝達講習会やミーティング等にて意見を出し合い質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に生活状況を把握するため面談を行い不安の無いように本人様の要望、対応できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に不安や要望を聞き、本人様との思いの違いを把握し、本人にとってより良いサービスに繋がるよう取り組んでいる。ご家族様とのコミュニケーションを大切にし、意見、要望を話しやす雰囲気づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様の意向をしっかりと把握し、安心してサービスを受ける事が出来るよう本人様、家族が必要とする事を事業所として出来る限りの支援を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験豊富な高齢者より教えて頂くという基本姿勢で接するよう努め、尊敬の意を持っている。又、教えあったり、励ましあったりしながら、生活を共にし、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の要望や、スタッフの思いを伝える事で家族の思いを知ることが出来、協力関係が築けている。又、ご家族様に出来る事は協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、知人、友人の面会時には、ゆつくりと過ごして頂くよう配慮している。又、地域施設の有効利用、家族と協力し合い支援出来るよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の出来ること、出来ない事を把握し、その方が力を発揮できるように声掛けを行ったり、一緒に行うことによって孤立せずに助け合いや意欲の向上に繋がるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等の案内状の発送を行い連絡し、気軽に足を運んで頂きフォローや相談の支援が行え働きかけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人様の行動、言動、芳情を観察しその中で思いや希望を把握するよう努めている。又、困難な場合は家族からの情報や希望を取り入れて、本人の立場で考えるよう検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の日々の暮らしの中での様子やサービス状況等、本人様は勿論、家族や親類の方、友人、知人からも情報を頂き本人が生活しやすいよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、その時の心身状態を観察している。又、様々な活動を提供する事で趣味や特技を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望や家族の思いを理解し、取り入れ、担当者主体となり月に一度全職員にてモニタリング、カンファレンスを行っている。身体状況が変化した時には見直しを随時行っている。又、スタッフ会議や申し送り等で出た意見等を検討し現状にあったケアが出来るようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や業務日誌、申し送り、連絡ファイル等にて情報を共有し常に話し合い計画担当者へ伝え、活かせる様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各利用様ひとりひとりの希望やケアからの気づきにより、実現可能な事は積極的に取り組むことを積み重ねてサービスの構築と満足度の向上に繋がるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館バスの利用や友人や家族の面会などから充実した暮らしが継続できるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医医師の訪問を受けており関係を密にしている。又、日曜、祝日についても連絡の取れる体制にあり、看護師も毎日往診に来ている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎日(日曜、祝日含む)来所している為スタッフが些細な事でも気軽に相談できる関係が出来ている。又、看護師と医師とも連携が密に取れる体制が確保されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活状況、既往歴等の情報を提供している。主治医と連携し家族と情報交換を行いながら対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を大切にし随時確認しながら医師、家族、職員による説明、話し合いを行っている。又、急変時には医療機関との連携を図り状況の変化がある毎に医師、職員が都度説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指示を受け、利用者のリスクについて確認し、ミーティング等にて話し合いを行っている。又、緊急時対策マニュアルを用意している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を地域の方や利用者と一緒にを行い安全に暮らせるよう取り組んでいる。又、近隣の方々にも緊急時連絡網に登録して頂き協力を頂いている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し利用者様を尊重した声掛けやプライドやプライバシーを損ねない対応をするよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のが自己決定しやすい声掛けをするよう心がけているまた、意思表示の困難な方には声をかけ表情を見ながら対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	生活リズムはあるが、都度声掛けを行い本人の意思や体調を確認しながら支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容室のサービスを利用している。又、服装身だしなみも、本人様のこだわりを大切に、自ら選択しやすいよう、環境を整えて支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や盛り付け、片付け等利用者様に負担にならないよう役割を分担したりスタッフが見守りや一緒に行い、意欲向上に繋げて行く		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表を使用し、食事摂取量や水分量を毎日記録し、体重測定も毎月実施している。又、記録報告し栄養指導を受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け行い、口腔ケアや義歯洗浄を行っている。又、夜間は義歯をお預かりし洗浄液につけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用し時間や様子観察等にてトイレ誘導の声掛けや対応を行うよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表と水分摂取表を記入し毎日観察している。リハビリや体操、歩行運動等に参加して頂くよう働きかけたり、水分や乳製品の提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	本人の意思を確認してから対応するように努め、無理強いせずに希望を取り入れるように支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促したりし安眠できるよう努めている。又、季節に合わせた寝具を使用したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報のファイルを作成しスタッフが内容を把握できるようチェックしている。又、誤薬防止のための準備、チェックの2重確認を行い飲み込みまで確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	声掛けや会話より情報を引出し、興味のあるもの等を把握し楽しみながら行えるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や法人内他施設の協力を得ながら本人の希望、体調や気分に合わせてドライブや施設周辺の散歩に出掛けるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人と確認しながら対応するように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持、本人の希望にて家族に電話をかけたり気兼ねなく出来るよう対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に季節を感じる装を作りを行い窓や壁に飾ったコーナーを作ったりして対応している。又、窓から見える場所に草花を植え季節を感じていただけるような環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いすやソファを所々に配置し利用者様同士話をしたり寛げるよう様々な空間の場所づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、使い慣れた物の持参の説明を行い、写真を飾ったり、小物の装飾にて対応するよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の出来ること、出来ないこと、状態等を把握し、安全確保と自立への配慮に努めている。		

目標達成計画

グループホーム らべんだあ・なでしこ

作成日：平成 29 年 3 月 10 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	49	特定の方に限られている為	利用者様が楽しく過ごす時間を作る	出来ないと決めつけず、実現するためにはどのようにしたら良いのか、利用者様の楽しみの実現に、どの様にしたら良いのかを考え、働きかけ実行出来るよう取り組む。	12ヶ月
2	57	一緒にゆったりとする時間、個別に係る時間が余り持ててない	ゆったりと過ごす時間をもつ	一緒に過ごす時間が利用者様の思いを聞ける機会だと思う。職員へ話しかけやすい環境作りに、趣味、嗜好を知る機会に、そして、スタッフを知る機会作りになるよう取り組む。	12ヶ月
3	35	自然災害について法人の災害対策委員会で定期的に話し合っているが、緊急招集訓練等、実技を伴う避難訓練の必要性を感じている。	火災以外を想定した訓練の実施	災害、事故で亡くなるニュースが聞かれるため、訓練の種類を増やし災害に備える。また、緊急連絡網が使用できるものなのか再度確認する。	12ヶ月
4	7	そのケアが良いのか、支援は間違っていないか再確認した方が良い	1人1人が意識を持って介護を行う。	従事者としてどのような言葉掛け、どのような対応、どのような介助が良いものなのか考え、実践できるよう指導、育成していくために、研修、勉強会を行う。また不適切な介助を見逃さない環境づくりも行う。	12ヶ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。